

西山堂病院

新入職員紹介

“いつまでも初心を大切に”

今年4月、西山堂病院に仲間入りした3名の新卒採用職員。
これから多くの知識・経験を積み重ね、病院の一翼を担う存在となります。
そんな彼らに仕事への思いなどを聞いてみました。



石川 真帆 MAHO ISHIKAWA (21)

看護課・一般病棟

看護師を目指そうと決めたまっかけは、高校2年生の時に西山堂病院へ入院し、看護師っていいなと思ったことです。自身が患者として入院したのは10日間でしたが、環境や接遇、治療面において当院に魅力を感じたため、応募することとなりました。

ひとつおりの業務が自立してできるよう、1つ1つの仕事をしっかりと覚えていきたいと思っています。

私の大切にしている言葉は、「継続は力なり」です。病棟の世界は患者様の命と向き合う仕事であり、想像していた通り、甘くない世界ですが、めげずに1日1日積み重ねていくことで、必ず自分の力になると信じて前向きに歩みたいのです。自分が処置をする際、スムーズに行えるよう、わからないことはそのままにせず、随時、看護師の先輩方に質問させてもらっています。



桑田 芽依 MEI KUWATA (21)

医事課・医療事務

私自身、受付の方に優しく接してもらった経験があり、そのような存在に私もなりたいたいの思いで、医療事務員を選びました。そして、当院は常陸太田市内の地域を支える中核病院として、多数の患者様が来院される為、多くのことを学び、経験を積みたく、応募しました。

受付は病院の顔となる為、笑顔で丁寧な対応に努め、患者様に信頼してもらえよう心掛けています。



埜 麗人 KAZUTO HANAWA (18)

看護課・一般病棟SC

私は病院で入院したことがあり医療現場に関心があったこと、高校で見た求人票の中で当院のものをを見つけ、看護助手（当院通称：サビスクル）という仕事に興味を沸いたことがサビスクルを選んだきっかけです。

応募動機は、もしも両親が介護が必要となったときの対応について学べる機会だと考えたことと、先輩方は厳しさの中にも優しさのある方ばかりで、職場の雰囲気が良いと感じたことです。

同じミスを繰り返さず、患者様に対して臨機応変な対応ができるよう心掛けています。

西山堂病院は、職員1人1人の可能性を信じています

西山堂慶和病院

心不全のエピソード

矢澤 寛子 医師（循環器内科）

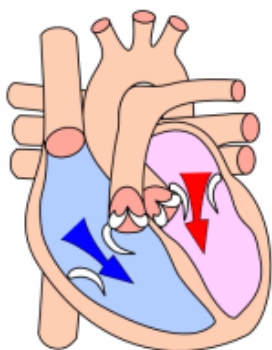
皆様、こんにちは。獨協医科大学病院 心臓・血管内科/循環器内科に所属しております、矢澤寛子と申します。私は2017年より1年間の当院常勤勤務を経て、その後、非常勤として3年間、2021年より改めて西山堂慶和病院 内科 常勤医として勤務しています。今年度で当院とご縁を頂き5年になりますが、外来や入院を通して地域の皆様と交流させて頂きながら日々の診療を行っています。

当院で診療を行っている時、皆様からの訴えで季節の移りを感じる事が多くあります。「畑仕事で長靴を履いたらムカデが入っていた」「草むしり中に蜂に刺された」「田植えに夢中になって水を飲まずに無理してしまった」「クーラーが嫌いなので部屋が暑くても我慢している」「若い人がいないから無理して白菜の収穫をしていたら増々苦しくなってきた」等々。春は花粉症や蜂刺され、夏は脱水や熱中症、梅雨や台風の時期は喘息、冬は高血圧や心血管疾患等の患者さんが多い印象がありますが、皆様にも思い当たる経験はございますでしょうか。



ところで、WHOが発表した2021年版の世界保健統計によると、世界で平均寿命が最も長い国は日本で84.3歳です。今、日本は世界一の長寿国となったわけですが、それに伴って**患者数が増加しているのが大動脈弁狭窄症**です。上杉謙信と武田信玄が「最近どうも息切れがして疲れやすく、年のせいかなあ?」「それ本当に年のせいかな? 弁膜症なんじゃない?」と会話している日本心臓病財団のテレビのコマーシャルをご覧になったことがある方がいらっしゃるかと思いますが、**大動脈弁狭窄症はまさしく心臓弁膜症のひとつ**です。

私は循環器内科医ですので、先ほど申し上げたエピソードの中でどうしても気になってしまうのが「無理したら苦しい」=心不全のエピソードです。歳を重ねると血管が固くなって弾力が失われます。心臓は4つの空間に隔たれ、その間に「弁」と呼ばれる扉がありますが、血管だけでなく弁も年とともに固くなります。大動脈弁は心臓の出口にあたる弁です。出口が固くなって扉が開かなくなることで心臓から全身に十分な血液を送り出せなくなり、**重症化すると狭心症、心不全、失神、突然死リスク**に繋がります。厄介なのはゆっくりと進行するので身体が慣れてしまうことで弁膜症の進行に気づかず、苦しなった時には超重症心不全になっていることが多々あります。



超長寿国家日本において元気で活動的な高齢者が増えている中で10年前までは開胸手術が絶対的だった弁膜症の治療法も、大動脈弁狭窄症についてはカテーテルで胸を開くことなく、5cm以内の傷で治療ができる時代になりました。TAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)です。施設によっては全身麻酔ではなく局所麻酔で施行可能です。低侵襲であることから80~90歳以上の高齢者を対象に行われていましたがここ数年は70歳代でもTAVIを行うことがあります。もう年だから、と諦めずに100年人生を目指して元気なお姿で外来に来て頂きたいと願うばかりです。

梅雨を迎え、これから暑くなる季節になります。皆様も水分管理に気を付けて、疲れやすいと思ったら年のせいかな、と思わずに気軽に相談してください。

介護老人保健施設 はすみ敬愛

看護・介護課より～施設活動の紹介～



1月は獅子舞と和太鼓演奏を行い利用者様にも太鼓を叩いていただき楽しみました。3月はひな祭り。利用者様に着物を着ていただき写真撮影を行いました。4月は、桜の花や菜の花を作成していただき廊下一面に壁画を作成しました。



リハビリ科より～新人職員が入職しました。

初めまして、今年の4月に入職しました今井さや乃と申します。毎日覚えることが沢山あり、大変である半面新しい知識を身につけられる環境で働ける事をとても嬉しく思います。至らない点も多々あるかと思いますが、早く慣れる事ができるように頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。



栄養課より～行事食の紹介



5月3日は「憲法記念日」でした。ご入所の皆様にお赤飯を提供させていただきました。5月5日は「こどもの日」で三食丼を提供させていただきました。～今後の予定～
6月焼きそば
7月うなぎの蒲焼



新型コロナウイルス感染対策について

感染症予防対策につきましては皆様のご協力とご理解をいただきまして感謝申し上げます。さて 新型コロナワクチンの予防接種も徐々に進んできております。地域の接種状況をみながら当施設の今後の感染予防策について検討していきたいと思っております。ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



ひたちの中央クリニック

クリニックからのお知らせ

気を付けよう！マスク着用による熱中症

新型コロナウイルスの感染予防のため、マスクの着用が当たり前の生活となっております。これから夏本番となりますが、マスクを着用していると体内に熱がこもりやすくなり、知らず知らずにマスク内の湿度が上がリ、**喉の渇きに気づきにくく脱水状態となるケース**があるので、例年以上に熱中症に注意する必要があります。

熱中症は、暑い環境や、体温が下がりにくい環境で起こる、体の異常で起こる症状で、めまい、立ちくらみ、頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感など様々な症状があり、いずれも脱水症状で体内の水分や塩分が失われることや、体温の上昇が原因といわれています。



【熱中症の主な予防法】

- ・こまめな水分(+塩分)補給
- ・十分な睡眠
- ・外出時の帽子や日傘の利用
- ・炎天下での外出や運動の回避
- ・無理をしない生活
- ・エアコンや扇風機の活用



熱中症は炎天下での運動などで発症しやすいことは知られていますが、熱帯夜にエアコン等を我慢して使用せず、寝ているうちに起こることもありますので、**室内にいるから大丈夫という事は有りません**のでご注意ください。熱中症は適切な日常生活で防ぐことができ、症状がみられても適切な対応を取ることで防げますので、これからの季節を熱中症対策で防ぎましょう。

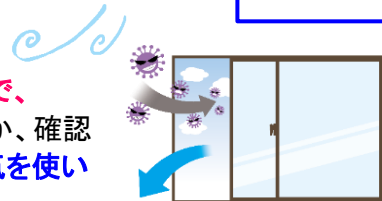
ここで、さらにご注意を！

室内にいますと、感染予防にも注意しなければなりません。そこで、感染対策の一つとして勧められているのが「換気」です。皆さんの中には「エアコンをつけていれば換気もしてくれているから大丈夫！」とお思いでしょう。最近では換気を行うエアコンも発売されておりますが、

実は、ほとんどの家庭用エアコンは室内の空気を循環させているだけで、換気の機能がありません。お使いのエアコンに換気機能があるかどうか、確認してみてください。換気機能が無い場合は、**エアコンと窓の開閉での換気を使い分けて、熱中症予防と感染対策を行って下さい。**



エアコンと
窓の開閉
の使い分け



新任非常勤医師のご紹介

4月より新しく外来診療を行っている先生方です

【内科】

●永野 惇浩 医師
(呼吸器内科)
毎週火曜日(1日)

●中田 悠貴 医師
(循環器内科)
毎週火曜日(1日)

●日丸陽介 医師
(循環器内科)
毎週水曜日(AM)
午後はEコー検査

●菅原洋平 医師
(循環器内科)
毎週木曜日(AM)
午後はEコー検査

【整形外科】

●眞宅崇徳 医師
毎週月曜日(1日)

クリニックからのお願い

引き続き感染対策にご協力下さい

新型コロナワクチンの予防接種が始まり、当院でも予防接種を行っております。より多くの方が予防接種を受けて頂き、一日でも早く流行が終息してほしいと願っております。

現時点では、まだまだ感染が収まっておりませんので、引き続き当院では感染対策を継続させて頂いております。

- ご来院されるすべての方(患者様、付添者様)を対象に、体温測定の実施
- 風邪症状、渡航歴・感染拡大地域への訪問歴、多人数での会食、濃厚接触歴の聞き取り
- 風邪症状の方も含めた感染症を疑う患者様への、お車や一般診察室とは別の診察室を利用した、動線を分けての診察

当院をご利用されている患者様に、安全かつ安心して診察が受けられる様に努めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願い致します。

